

出題分析			
試験時間	60 分	配点	40 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[ <span style="border: 1px solid black;">易化</span> 同程度 難化]
<b>【概評】</b> 〈現代文〉 大問の構成、本文の分量、設問の形式とも、概ね昨年と同様であった。昨年は故事成語に関係する設問があったが、今年の(一)も古文の知識が問われる設問があった。本文も和歌に関連する文章であり、古典の要素が取り入れられている。(二)は経済学に関する専門的な内容の文章であり、理解するのに苦勞した受験生もいただろう。昨年と同様に、大学院生と大学一年生の会話を用いた設問や、図を用いた設問があった。全体の設問数は昨年より4減り、15。全体の解答数は昨年より1減り、19。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 下西風澄『生成と消滅の精神史』	日本人の自然に対する意識の変遷について、『万葉集』と『古今集』の和歌を用いつつ分析した文章。本文は平易な文章で読みやすく、設問も選択式のものには判断に迷わないが、問五や問八など一部解答しにくいものがある。内容把握4問、空欄補充4問、内容合致1問の構成。	標準
二	現代文 (評論) 小林慶一郎「認知的制約がバブルを作る？」	人間の期待形成や意思決定の方法について分析した文章。専門的な内容であり、理解するのは難しいが、設問は概ね取り組みやすい。大学院生と大学一年生の会話の設問は、会話の流れを掴むことができれば解答できる。空欄補充4問、理由説明1問、本文の内容に合う図解を選ぶ問題1問の構成。	やや易

**合格のための学習法**

これまでも専門用語を多く含む文章が採用されてきたが、本年も専門的な用語を含む文章が課されている。また文章量・設問数とも多めであり、グラフや図版、会話（言語活動）の場面などを参照しながら横断的に取り組む姿勢が求められている。本学部の過去問のみならず、さまざまな文章のジャンルや出題形式に触れ、柔軟に対応できる学力を培っておこう。